本堂の建築と彫刻

岡谷　宮坂　正博

平福寺本堂は昭和16年完成、唐破風向拝付き平入り入母屋造で、棟梁は「宮坂兄弟組」宮坂豊治（1891～1956・昭和23年岡谷土木建築㈱）であるが会社は現存しない。兄弟とは「豊治」「計佐雄」「徳三郎」「忠五郎」「正晴」「長田多三男」であり一族平福寺の檀徒である。私も豊治の孫の一人です。宮坂兄弟組は大正14年に日限地蔵堂も建設しています。彫刻は武田熊治苞信（1859～1942？）晩年の作である。松に鷹、鳳凰、龍、簑亀、鶴、木鼻の唐獅子と象など内外にある彫刻の内、特に意味深い内陣正面の欄間彫刻3面について紹介します。

この3面は中国の故事二十四考（孝行を尽くした24人）から選ばれています。

左から董永（体を売って父を葬る）

幼時に母と別れ足の悪い父と貧しく農業をしている董永。父が亡くなり葬式を出すお金がないため身売りをして葬式をした。身請主の所へ行こうとすると孝行に感心した天の意を汲んだ織姫が現れ織絹を身請主に届け許されたと言われる。織姫は董永の妻となって幸せに暮らす。

中央郭巨（地を掘って金を出す）

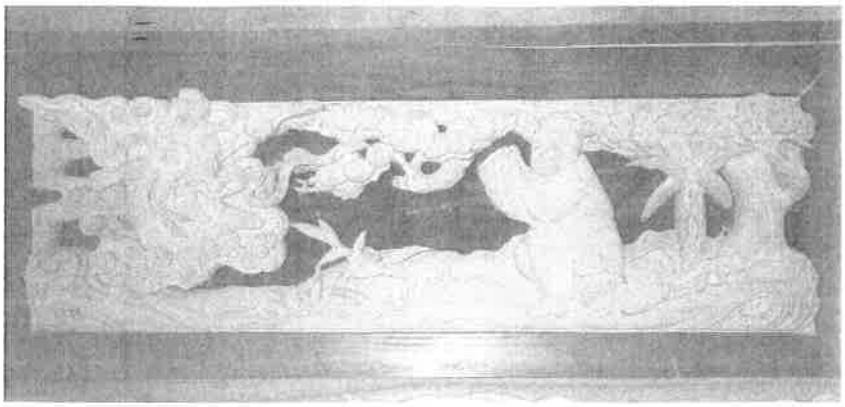
貧しい郭巨は母、妻と幼い子供と暮らしていた。食べ物が足りないため子供は又授かるが母は二度と授からないと考え、この子を埋めて母を養おうとする。地面を掘ると孝行に感心した天の配慮で黄金の壺が出てきて幸せになる。

右揚香（虎をつかんで親を救う）

父と山へ行った揚香は虎と遭遇する。揚香は天に自分だけ食べて父を助ける様願う。すると孝行に感心した天が虎を去らせ父子共に助かる。

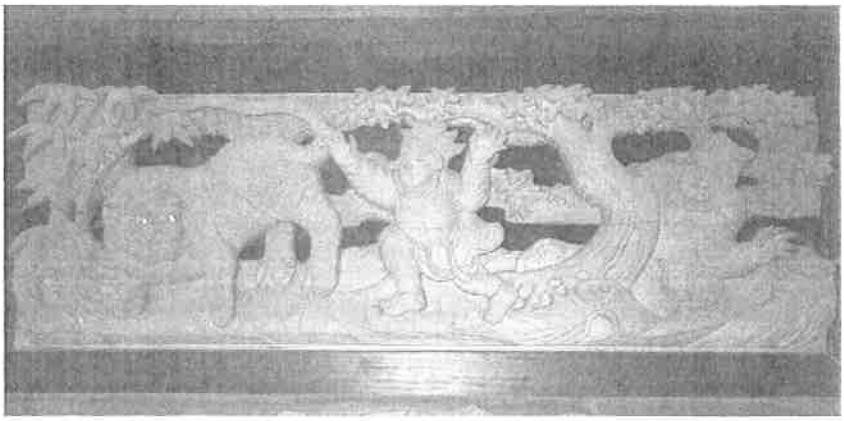
という内容です。

二十四考には他に孟宗（竹になき筍を生ず）。唐夫人（姑に乳を飲ませて怠らず）。大瞬（考天を感動せしむ）など多くの彫刻の題材になっています。立川流でもよく見かけます。本堂を利用する時に改めて目線を上げて見ていただければ幸いです。



左　董永（体を売って父を葬る）

中央　郭巨（地を掘って金を出す）



右　揚香（虎をつかんで親を救う）